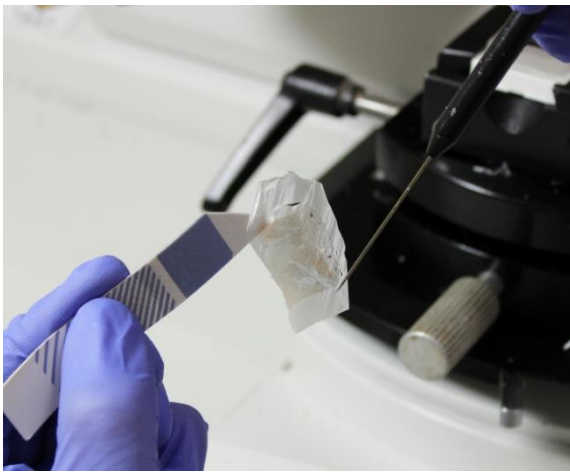


# 病理検査

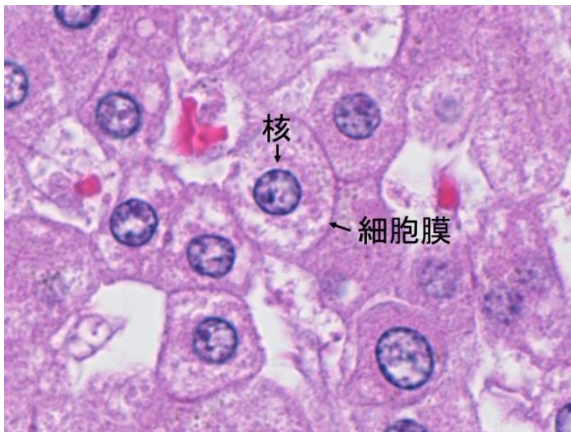
病理検査は、手術や内視鏡などでとられた病気の臓器から顕微鏡で観察するためのガラス標本を作り、病気の原因をくわしく調べる検査です。

「病理組織検査」、「細胞検査」、「病理解剖」の3つからなります。

病理組織検査は、臓器を顕微鏡でみるために目では見えないほどうすく削ってガラス標本をつくる必要があります（厚さ数ミクロン！かつおぶしよりもうすい）。



そこに、いろいろな色をつけて目で見えるようにした標本が下の写真（肝ぞう）です。



ひとつひとつの細胞には核があり、そのまわりを細胞膜が囲んでいます。

細胞検査は、うすく削らずに細胞をそのままの形で観察します。

病理解剖は、不幸にして亡くなられた患者さまの病気の原因を探したり、治療の効果をみて、最終的な診断をするために行います。